

1 実数全体で定義された連続関数 $f(x)$ が等式 $f(x) = \sin^2 x + \int_0^{\frac{\pi}{2}} f(t) dt$ を満たすとき, $f(x)$ を求めよ。

2 関数 $f(x)$ は $f(x) = x + 2 \int_0^{\pi} f(t) \sin(x-t) dt$ を満たすとする。
このとき, $f(x)$ を求めよ。

3 $f(x) = \int_0^x (1-t^2)e^t dt$ の極値を求めよ。

4 関数 $F(x)=\int_{-x}^x\frac{\cos t}{1+e^t}dt$ について

(1) 導関数 $F'(x)$ を求めよ。

(2) $F(x)$ を求めよ。

5 連続関数 $f(x)$ に対して $F(x)=-\frac{x}{2}+\int_x^0tf(x-t)dt$ とおく。

また、 $F''(x)=\cos x$ とする。

(1) $f(x)$, $F(x)$ を求めよ。

(2) $-\frac{\pi}{2}\leq x\leq\frac{\pi}{2}$ において、 $F(x)$ の最大値, 最小値を求めよ。

6 次の極限值を求めよ。

$$\lim_{n\rightarrow\infty}\sum_{k=1}^n\frac{1}{n}\cos^2\frac{k\pi}{4n}$$

7 次の極限値を求めよ。

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{n}{n^2 + 1^2} + \frac{n}{n^2 + 2^2} + \cdots + \frac{n}{n^2 + n^2} \right)$$

8 (1) 極限値 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \log \left(1 + \frac{k}{3n} \right)$ を求めよ。

(2) 極限値 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sqrt[n]{(3n+1)(3n+2) \cdots (4n)}$ を求めよ。

9 関数 $g(x) = \int_1^e |\log t - x| dt$ の $0 \leq x \leq 1$ における最小値とそのときの x の値を求めよ。

10 $0 < a < \frac{\pi}{2}$ とし, $S(a) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} |x - a| \sin x \, dx$ とおく。 $S(a)$ の最小値とそのときの a の値を求めよ。

11 a, b を実数とする。 a, b の値を変化させたときの積分 $\int_0^1 \{\cos \pi x - (ax + b)\}^2 dx$ の最小値, およびそのときの a, b の値を求めよ。

12 関数 $f(x)$ は, $f(0) = 0$ を満たすものとし, また, $g(x) = \int_0^x (e^x + e^t) f'(t) \, dt$ とおく。

(1) $g(x)$ の導関数 $g'(x)$ を計算せよ。

(2) $e^x f(x) = -3x^2 e^x + g(x)$ が成り立つとき, $f(x)$ を求めよ。

13 関数 $f(x)$ が任意の実数 x に対して $f(x) = x^2 - \int_0^x (x-t)f'(t)dt$ を満たす。

- (1) $f(0)$ の値を求め、更に、 $f'(x) = 2x - f(x)$ が成り立つことを示せ。
- (2) $\{e^x f(x)\}' = 2xe^x$ を示せ。
- (3) $f(x)$ を求めよ。

14 (1) $\int \frac{dx}{1-x^2}$ を求めよ。

(2) $0 \leq x \leq \frac{1}{3}$ のとき、 $1+x^2 \leq \frac{1}{1-x^2} \leq 1+\frac{9}{8}x^2$ が成り立つことを示せ。

(3) 定積分を利用して、 $\frac{56}{81} \leq \log 2 \leq \frac{25}{36}$ を示せ。

15 (1) 定積分 $\int_0^1 \frac{1}{1+x^2} dx$ を求めよ。

(2) 不等式 $\frac{\pi}{4} < \int_0^1 \frac{1}{1+x^4} dx < 1$ が成り立つことを示せ。

- 16
- (1)

$k>0$ のとき，不等式 $\int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx < \frac{1}{k}$ が成り立つことを示せ。
- (2)

不等式 $\log_e(n+1) < \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \cdots + \frac{1}{n}$ が成り立つことを示せ。
- (3)

無限級数 $\frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \cdots$ の収束，発散を調べ，収束するときは和を求めよ。

- 17
- 実数 x に対して， x を超えない最大の整数を $[x]$ で表す。 n を正の整数とし，
$$a_n = \sum_{k=1}^n \frac{[\sqrt{2n^2 - k^2}]}{n^2}$$
 とおく。このとき， $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n$ を求めよ。

- 18
- m, n を正の整数とする。定積分 $I(m, n) = \int_0^1 x^m (1-x)^n dx$ に関して
- (1)

$I(m, 1)$ を求めよ。
- (2)

$n \geq 2$ のとき， $I(m, n)$ を $I(m+1, n-1)$ を用いて表せ。
- (3)

$I(m, n)$ を m と n を用いて表せ。

- 19
- (1) $f(x)=e^{-x}\sin x$, $g(x)=e^{-x}\cos x$ とおくと、導関数 $f'(x)$, $g'(x)$ を求めよ。
- (2) 自然数 k に対して、 $I_k=\int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x}\sin x dx$, $J_k=\int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x}\cos x dx$ とおくと、(1)の結果を用いて I_k+J_k , I_k-J_k を求めよ。
- (3) 自然数 n に対して、 $S_n=\int_0^{n\pi} e^{-x}|\sin x|dx$ とおくと、 $\lim_{n\rightarrow\infty} S_n$ の値を求めよ。

〔1〕実数全体で定義された連続関数 $f(x)$ が等式 $f(x)=\sin^2 x+\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(t)dt$ を満たすとき、
 $f(x)$ を求めよ。

〔解答〕 $f(x)=\sin^2 x+\frac{\pi}{2(2-\pi)}$

〔解説〕

$\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(t)dt=k$ (k は定数) とおくと $f(x)=\sin^2 x+k$

ゆえに $\int_0^{\frac{\pi}{2}} f(t)dt=\int_0^{\frac{\pi}{2}} (\sin^2 t+k)dt=\int_0^{\frac{\pi}{2}} \left\{\frac{1}{2}(1-\cos 2t)+k\right\}dt$

$=\left[\frac{1}{2}\left(t-\frac{1}{2}\sin 2t\right)+kt\right]_0^{\frac{\pi}{2}}=\frac{\pi}{4}+\frac{\pi}{2}k$

よって、 $k=\frac{\pi}{4}+\frac{\pi}{2}k$ から $k=\frac{\pi}{2(2-\pi)}$

したがって $f(x)=\sin^2 x+\frac{\pi}{2(2-\pi)}$

〔2〕関数 $f(x)$ は $f(x)=x+2\int_0^{\pi} f(t)\sin(x-t)dt$ を満たすとする。

このとき、 $f(x)$ を求めよ。

〔解答〕 $f(x)=x-\frac{2(\pi^2+2)}{\pi^2+1}\sin x+\frac{2\pi}{\pi^2+1}\cos x$

〔解説〕

$f(x)=x+2\int_0^{\pi} f(t)(\sin x\cos t-\cos x\sin t)dt$

$=x+2\sin x\int_0^{\pi} f(t)\cos tdt-2\cos x\int_0^{\pi} f(t)\sin tdt$

$2\int_0^{\pi} f(t)\cos tdt=A, -2\int_0^{\pi} f(t)\sin tdt=B$ (A, B は定数) とおくと、 $f(x)$ は

$f(x)=x+A\sin x+B\cos x$ と表される。

よって $A=2\int_0^{\pi}(t+A\sin t+B\cos t)\cos tdt$

$=2\int_0^{\pi}(t\cos t+A\sin t\cos t+B\cos^2 t)dt$

ここで $\int_0^{\pi} t\cos tdt=\left[t\sin t\right]_0^{\pi}-\int_0^{\pi}\sin tdt=0+\left[\cos t\right]_0^{\pi}=-2$

$\int_0^{\pi}\sin t\cos tdt=\frac{1}{2}\int_0^{\pi}\sin 2tdt=\frac{1}{2}\left[-\frac{1}{2}\cos 2t\right]_0^{\pi}=0$

$\int_0^{\pi}\cos^2 tdt=\frac{1}{2}\int_0^{\pi}(1+\cos 2t)dt=\frac{1}{2}\left[t+\frac{1}{2}\sin 2t\right]_0^{\pi}=\frac{\pi}{2}$

であるから $A=2\left(-2+\frac{\pi}{2}B\right)$ ゆえに $A-\pi B=-4$ …… ①

また $B=-2\int_0^{\pi}(t+A\sin t+B\cos t)\sin tdt$

$=-2\int_0^{\pi}(t\sin t+A\sin^2 t+B\sin t\cos t)dt$

ここで $\int_0^{\pi} t\sin tdt=\left[-t\cos t\right]_0^{\pi}+\int_0^{\pi}\cos tdt=\pi+\left[\sin t\right]_0^{\pi}=\pi$

$\int_0^{\pi}\sin^2 tdt=\frac{1}{2}\int_0^{\pi}(1-\cos 2t)dt=\frac{1}{2}\left[t-\frac{1}{2}\sin 2t\right]_0^{\pi}=\frac{\pi}{2}$

であるから $B=-2\left(\pi+\frac{\pi}{2}A\right)$ ゆえに $\pi A+B=-2\pi$ …… ②

①, ② を解くと $A=-\frac{2(\pi^2+2)}{\pi^2+1}, B=\frac{2\pi}{\pi^2+1}$

よって $f(x)=x-\frac{2(\pi^2+2)}{\pi^2+1}\sin x+\frac{2\pi}{\pi^2+1}\cos x$

〔3〕 $f(x)=\int_0^x(1-t^2)e^tdt$ の極値を求めよ。

〔解答〕 $x=-1$ のとき極小値 $1-\frac{4}{e}$, $x=1$ のとき極大値 1

〔解説〕

$f'(x)=(1-x^2)e^x$ であるから $f'(x)=0$ のとき $x=\pm 1$

ゆえに、増減表は次のようになる。

x	…	-1	…	1	…
$f'(x)$	$-$	0	$+$	0	$-$
$f(x)$	\searrow	極小	\nearrow	極大	\searrow

また $f(x)=\left[(1-t^2)e^t\right]_0^x+2\int_0^x te^tdt$

$=(1-x^2)e^x-1+2\left[te^t\right]_0^x-2\int_0^xe^tdt$

$=(-1+2x-x^2)e^x+1$

よって、 $x=-1$ のとき極小値 $f(-1)=1-\frac{4}{e}$,

$x=1$ のとき 極大値 $f(1)=1$ をとる。

〔4〕関数 $F(x)=\int_{-x}^x\frac{\cos t}{1+e^t}dt$ について

(1) 導関数 $F'(x)$ を求めよ。

(2) $F(x)$ を求めよ。

〔解答〕 (1) $F'(x)=\cos x$ (2) $F(x)=\sin x$

〔解説〕

(1) $F(x)=\int_{-x}^x\frac{\cos t}{1+e^t}dt=\int_0^x\frac{\cos t}{1+e^t}dt-\int_0^{-x}\frac{\cos t}{1+e^t}dt$

よって $F'(x)=\frac{\cos x}{1+e^x}-\frac{\cos(-x)}{1+e^{-x}}\cdot(-1)=\cos x\cdot\left(\frac{1}{1+e^x}+\frac{e^x}{e^x+1}\right)=\cos x$

(2) $F'(x)=\cos x$ から $F(x)=\int\cos xdx=\sin x+C$ (C は積分定数)

また、 $F(0)=0$ であるから $C=0$

したがって $F(x)=\sin x$

〔5〕連続関数 $f(x)$ に対して $F(x)=-\frac{x}{2}+\int_x^0tf(x-t)dt$ とおく。

また、 $F''(x)=\cos x$ とする。

(1) $f(x), F(x)$ を求めよ。

(2) $-\frac{\pi}{2}\leq x\leq\frac{\pi}{2}$ において、 $F(x)$ の最大値、最小値を求めよ。

〔解答〕 (1) $f(x)=-\cos x, F(x)=-\cos x-\frac{x}{2}+1$

(2) $x=-\frac{\pi}{2}$ のとき最大値 $\frac{\pi}{4}+1, x=\frac{\pi}{6}$ のとき最小値 $-\frac{\sqrt{3}}{2}-\frac{\pi}{12}+1$

〔解説〕

(1) $x-t=u$ とおくと $t=x-u$

よって $dt=-du$

ゆえに $F(x)=-\frac{x}{2}+\int_0^x(x-u)f(u)\cdot(-1)du$

$=-\frac{x}{2}+\int_0^xu f(u)du-x\int_0^xf(u)du$

よって $F'(x)=-\frac{1}{2}+xf(x)-\int_0^xf(u)du-xf(x)=-\int_0^xf(u)du-\frac{1}{2}$ …… ①

$F''(x)=-f(x)$

$F''(x)=\cos x$ であるから $f(x)=-\cos x$

よって、① から $F'(x)=\int_0^x\cos udu-\frac{1}{2}=\sin x-\frac{1}{2}$

ゆえに $F(x)=-\cos x-\frac{x}{2}+C$ (C は積分定数)

ここで、 $F(0)=0$ であるから、 $-1+C=0$ より $C=1$

したがって $F(x)=-\cos x-\frac{x}{2}+1$

(2) (1) から、 $F'(x)=0$ とすると $\sin x=\frac{1}{2}$

$-\frac{\pi}{2}\leq x\leq\frac{\pi}{2}$ のとき $x=\frac{\pi}{6}$

$-\frac{\pi}{2}\leq x\leq\frac{\pi}{2}$ における $F(x)$ の増減表は

右のようになる。

ここで $F\left(-\frac{\pi}{2}\right)=\frac{\pi}{4}+1, F\left(\frac{\pi}{2}\right)=-\frac{\pi}{4}+1$

よって、 $F(x)$ は $x=-\frac{\pi}{2}$ のとき最大値 $\frac{\pi}{4}+1,$

$x=\frac{\pi}{6}$ のとき最小値 $F\left(\frac{\pi}{6}\right)=-\frac{\sqrt{3}}{2}-\frac{\pi}{12}+1$ をとる。

〔6〕次の極限値を求めよ。

$\lim_{n\rightarrow\infty}\sum_{k=1}^n\frac{1}{n}\cos^2\frac{k\pi}{4n}$

〔解答〕 $\frac{\pi+2}{2\pi}$

〔解説〕

$\lim_{n\rightarrow\infty}\sum_{k=1}^n\frac{1}{n}\cos^2\frac{k\pi}{4n}=\lim_{n\rightarrow\infty}\frac{1}{n}\sum_{k=1}^n\cos^2\left(\frac{\pi}{4}\cdot\frac{k}{n}\right)=\int_0^1\cos^2\frac{\pi}{4}xdx=\int_0^1\frac{1+\cos\frac{\pi}{2}x}{2}dx$

$=\left[\frac{x}{2}+\frac{\sin\frac{\pi}{2}x}{\pi}\right]_0^1=\frac{1}{2}+\frac{1}{\pi}=\frac{\pi+2}{2\pi}$

〔7〕次の極限値を求めよ。

$\lim_{n\rightarrow\infty}\left(\frac{n}{n^2+1^2}+\frac{n}{n^2+2^2}+\cdots+\frac{n}{n^2+n^2}\right)$

〔解答〕 $\frac{\pi}{4}$

解説

$$(与式)=\lim_{n\rightarrow\infty}\frac{1}{n}\left\{\frac{1}{1+\left(\frac{1}{n}\right)^2}+\frac{1}{1+\left(\frac{2}{n}\right)^2}+\cdots+\frac{1}{1+\left(\frac{n}{n}\right)^2}\right\}=\int_0^1\frac{1}{1+x^2}dx$$

$$x=\tan\theta\text{とおくと, }dx=\frac{1}{\cos^2\theta}d\theta\text{ であるから}$$

$$(与式)=\int_0^{\frac{\pi}{4}}\frac{1}{1+\tan^2\theta}\cdot\frac{1}{\cos^2\theta}d\theta=\int_0^{\frac{\pi}{4}}d\theta=\left[\theta\right]_0^{\frac{\pi}{4}}=\frac{\pi}{4}$$

8 (1) 極限值 $\lim_{n\rightarrow\infty}\frac{1}{n}\sum_{k=1}^n\log\left(1+\frac{k}{3n}\right)$ を求めよ。

(2) 極限值 $\lim_{n\rightarrow\infty}\frac{1}{n}\sqrt[3]{(3n+1)(3n+2)\cdot\cdots\cdot(4n)}$ を求めよ。

解答 (1) $4\log\frac{4}{3}-1$ (2) $\frac{256}{27e}$

解説

$$(1) (与式)=\int_0^1\log\left(1+\frac{x}{3}\right)dx=\int_0^1\left\{3\left(1+\frac{x}{3}\right)\right\}'\log\left(1+\frac{x}{3}\right)dx\\=\left[(3+x)\log\left(1+\frac{x}{3}\right)\right]_0^1-\int_0^1dx=4\log\frac{4}{3}-1$$

(2) $a_n=\frac{1}{n}\sqrt[3]{(3n+1)(3n+2)\cdot\cdots\cdot(4n)}$ とおくと

$$a_n=3^{\frac{n}{3}}\sqrt[3]{\frac{3n+1}{3n}\cdot\frac{3n+2}{3n}\cdot\cdots\cdot\frac{3n+n}{3n}}\\ \log a_n=\log 3+\frac{1}{n}\left\{\log\left(1+\frac{1}{3n}\right)+\log\left(1+\frac{2}{3n}\right)+\cdots+\log\left(1+\frac{n}{3n}\right)\right\}\\=\log 3+\frac{1}{n}\sum_{k=1}^n\log\left(1+\frac{k}{3n}\right)\text{ であるから}$$

$$\lim_{n\rightarrow\infty}\log a_n=\log 3+4\log\frac{4}{3}-1=\log\left(3\cdot\frac{4^4}{3^4}\cdot\frac{1}{e}\right)=\log\frac{256}{27e}$$

$y=\log x$ は単調に増加するから $\lim_{n\rightarrow\infty}a_n=\frac{256}{27e}$

9 関数 $g(x)=\int_1^e|\log t-x|dt$ の $0\leqq x\leqq 1$ における最小値とそのときの x の値を求めよ。

解答 $x=\log\frac{e+1}{2}$ のとき最小値 $e-(e+1)\log\frac{e+1}{2}$

解説

$$t\geqq e^x\text{ のとき }|\log t-x|=\log t-x,\ t\leqq e^x\text{ のとき }|\log t-x|=x-\log t$$

また $0\leqq x\leqq 1$ から $1\leqq e^x\leqq e$

$$\text{ゆえに }g(x)=\int_1^{e^x}(x-\log t)dt+\int_{e^x}^e(\log t-x)dt\\=\left[xt-t\log t+t\right]_1^{e^x}+\left[t\log t-t-xt\right]_{e^x}^e\\=2e^x-(e+1)x-1$$

$g'(x)=2e^x-(e+1)$ $g'(x)=0$ とすると $x=\log\frac{e+1}{2}$

よって、右の増減表を得る。

$$g\left(\log\frac{e+1}{2}\right)\\=2\cdot\frac{e+1}{2}-(e+1)\log\frac{e+1}{2}-1$$

x	0	…	$\log\frac{e+1}{2}$	…	1
$g'(x)$		–	0	+	
$g(x)$		\searrow	極小	\nearrow	

$$=e-(e+1)\log\frac{e+1}{2}$$

ゆえに、 $g(x)$ は $x=\log\frac{e+1}{2}$ のとき最小値 $e-(e+1)\log\frac{e+1}{2}$ をとる。

10 $0<a<\frac{\pi}{2}$ とし、 $S(a)=\int_0^{\frac{\pi}{2}}|x-a|\sin xdx$ とおく。 $S(a)$ の最小値とそのときの a の値を求めよ。

解答 $a=\frac{\pi}{3}$ のとき最小値 $\frac{\pi}{3}+1-\sqrt{3}$

解説

$0<a<\frac{\pi}{2}$ であるから、

$0\leqq x\leqq a$ のとき $|x-a|=-(x-a)$

$a\leqq x\leqq\frac{\pi}{2}$ のとき $|x-a|=x-a$

$$\text{よって }S(a)=-\int_0^a(x-a)\sin xdx+\int_a^{\frac{\pi}{2}}(x-a)\sin xdx\\=\left[(x-a)\cos x\right]_0^a-\int_0^a\cos xdx-\left[(x-a)\cos x\right]_a^{\frac{\pi}{2}}+\int_a^{\frac{\pi}{2}}\cos xdx\\=a-\left[\sin x\right]_0^a+\left[\sin x\right]_a^{\frac{\pi}{2}}\\=a-\sin a+1-\sin a=a+1-2\sin a$$

$S'(a)=1-2\cos a$

$S'(a)=0$ とすると、

$0<a<\frac{\pi}{2}$ であるから $a=\frac{\pi}{3}$

よって、 $a=\frac{\pi}{3}$ のとき

$S(a)$ は極小かつ最小となり、最小値 $S\left(\frac{\pi}{3}\right)=\frac{\pi}{3}+1-\sqrt{3}$ をとる。

a	0	…	$\frac{\pi}{3}$	…	$\frac{\pi}{2}$
$S'(a)$		–	0	+	
$S(a)$		\searrow	極小	\nearrow	

11 a, b を実数とする。 a, b の値を変化させたときの積分 $\int_0^1[\cos\pi x-(ax+b)]^2dx$ の最小値、およびそのときの a, b の値を求めよ。

解答 $a=-\frac{24}{\pi^2}$ 、 $b=\frac{12}{\pi^2}$ のとき最小値 $-\frac{48}{\pi^4}+\frac{1}{2}$

解説

$$\{\cos\pi x-(ax+b)\}^2=\cos^2\pi x+(ax+b)^2-2(ax+b)\cos\pi x\\=\frac{1}{2}\cos 2\pi x+a^2x^2+2abx+b^2+\frac{1}{2}-2(ax+b)\cos\pi x$$

ここで $\int_0^1\cos 2\pi xdx=\left[\frac{1}{2\pi}\sin 2\pi x\right]_0^1=0$,

$$\int_0^1\left(a^2x^2+2abx+b^2+\frac{1}{2}\right)dx=\frac{a^2}{3}+ab+b^2+\frac{1}{2},$$

$$-2\int_0^1(ax+b)\cos\pi xdx=-2\left[(ax+b)\frac{\sin\pi x}{\pi}\right]_0^1+2\int_0^1\frac{a}{\pi}\sin\pi xdx\\=\frac{2a}{\pi}\left[-\frac{\cos\pi x}{\pi}\right]_0^1=\frac{4a}{\pi^2}$$

ゆえに $\int_0^1[\cos\pi x-(ax+b)]^2dx=b^2+ab+\frac{a^2}{3}+\frac{4a}{\pi^2}+\frac{1}{2}$

$$=\left(b+\frac{a}{2}\right)^2+\frac{1}{12}\left(a^2+\frac{48}{\pi^2}a\right)+\frac{1}{2}$$

$$=\left(b+\frac{a}{2}\right)^2+\frac{1}{12}\left(a+\frac{24}{\pi^2}\right)^2-\frac{48}{\pi^4}+\frac{1}{2}$$

よって、 $a=-\frac{24}{\pi^2}$ 、 $b=\frac{12}{\pi^2}$ のとき最小値 $-\frac{48}{\pi^4}+\frac{1}{2}$ をとる。

12 関数 $f(x)$ は、 $f(0)=0$ を満たすものとし、また、 $g(x)=\int_0^x(e^x+e^t)f'(t)dt$ とおく。

(1) $g(x)$ の導関数 $g'(x)$ を計算せよ。

(2) $e^xf(x)=-3x^2e^x+g(x)$ が成り立つとき、 $f(x)$ を求めよ。

解答 (1) $g'(x)=e^xf(x)+2e^xf'(x)$ (2) $f(x)=x^3+3x^2$

解説

(1) $g(x)=e^x\int_0^xf'(t)dt+\int_0^xe^tf'(t)dt$ であるから

$$g'(x)=e^x\int_0^xf'(t)dt+e^xf'(x)+e^xf'(x)=e^x\{f(x)-f(0)\}+2e^xf'(x)\\=e^xf(x)+2e^xf'(x)$$

(2) $e^xf(x)=-3x^2e^x+g(x)$ の両辺を微分して

$$e^xf(x)+e^xf'(x)=-(3x^2+6x)e^x+e^xf(x)+2e^xf'(x)\text{ を得る。}$$

これより $e^xf'(x)=(3x^2+6x)e^x$ であるから $f'(x)=3x^2+6x$

よって $f(x)=\int(3x^2+6x)dx=x^3+3x^2+C$ (C は積分定数)

ここで、条件 $f(0)=0$ から $C=0$ よって $f(x)=x^3+3x^2$

13 関数 $f(x)$ が任意の実数 x に対して $f(x)=x^2-\int_0^x(x-t)f'(t)dt$ を満たす。

(1) $f(0)$ の値を求め、更に、 $f'(x)=2x-f(x)$ が成り立つことを示せ。

(2) $\{e^xf(x)\}'=2xe^x$ を示せ。

(3) $f(x)$ を求めよ。

解答 (1) $f(0)=0$ 、証明略 (2) 略 (3) $f(x)=2(x-1+e^{-x})$

解説

(1) 与えられた等式から $f(x)=x^2-x\int_0^xf'(t)dt+\int_0^xtf'(t)dt\cdots\cdots\textcircled{1}$

① の両辺に $x=0$ を代入すると $f(0)=0^2-0\cdot\int_0^0f'(t)dt+\int_0^0tf'(t)dt=0$

また、① の両辺を x について微分すると

$$f'(x)=2x-\int_0^xf'(t)dt-xf'(x)+xf'(x)\\=2x-\int_0^xf'(t)dt=2x-\left[f(t)\right]_0^x=2x-f(x)+f(0)$$

$f(0)=0$ であるから、 $f'(x)=2x-f(x)$ が成り立つ。

(2) $\{e^xf(x)\}'=e^xf(x)+e^xf'(x)=e^x\{f(x)+f'(x)\}$

(1) より、 $f'(x)=2x-f(x)$ であるから $\{e^xf(x)\}'=e^x\{f(x)+2x-f(x)\}=2xe^x$

(3) $e^xf(x)=\int\{e^xf(x)\}'dx=\int 2xe^xdx=2xe^x-\int 2e^xdx\\=2xe^x-2e^x+C=2(x-1)e^x+C$ (C は積分定数)

$x=0$ を代入すると $e^0f(0)=2(0-1)e^0+C$

すなわち $f(0)=-2+C$ $f(0)=0$ であるから $C=2$

よって $e^xf(x)=2(x-1)e^x+2$

したがって $f(x)=2(x-1+e^{-x})$

14 (1) $\int \frac{dx}{1-x^2}$ を求めよ。

(2) $0 \leq x \leq \frac{1}{3}$ のとき、 $1+x^2 \leq \frac{1}{1-x^2} \leq 1+\frac{9}{8}x^2$ が成り立つことを示せ。

(3) 定積分を利用して、 $\frac{56}{81} \leq \log 2 \leq \frac{25}{36}$ を示せ。

解答 (1) $\frac{1}{2} \log \left| \frac{1+x}{1-x} \right| + C$ (C は積分定数) (2) 略 (3) 略

解説

(1) $\int \frac{dx}{1-x^2} = \frac{1}{2} \int \left(\frac{1}{1+x} + \frac{1}{1-x} \right) dx = \frac{1}{2} \log \left| \frac{1+x}{1-x} \right| + C$ (C は積分定数)

(2) $0 \leq x \leq \frac{1}{3}$ のとき、 $1-x^2 > 0$ であるから $(1+x^2)(1-x^2) \leq 1 \leq \left(1+\frac{9}{8}x^2\right)(1-x^2)$ を示せばよい。

$x \geq 0$ であるから $(1+x^2)(1-x^2) = 1-x^4 \leq 1$

また $\left(1+\frac{9}{8}x^2\right)(1-x^2) - 1 = \frac{x^2}{8}(1-3x)(1+3x) \geq 0$

よって $1+x^2 \leq \frac{1}{1-x^2} \leq 1+\frac{9}{8}x^2$

(3) (2) から $\int_0^{\frac{1}{3}} (1+x^2) dx \leq \int_0^{\frac{1}{3}} \frac{dx}{1-x^2} \leq \int_0^{\frac{1}{3}} \left(1+\frac{9}{8}x^2\right) dx$

ゆえに $\frac{28}{81} \leq \frac{1}{2} \log 2 \leq \frac{25}{72}$ よって $\frac{56}{81} \leq \log 2 \leq \frac{25}{36}$

15 (1) 定積分 $\int_0^1 \frac{1}{1+x^2} dx$ を求めよ。

(2) 不等式 $\frac{\pi}{4} < \int_0^1 \frac{1}{1+x^4} dx < 1$ が成り立つことを示せ。

解答 (1) $\frac{\pi}{4}$ (2) 略

解説

(1) $x = \tan \theta$ とおくと $dx = \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta$

よって $\int_0^1 \frac{1}{1+x^2} dx = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{1+\tan^2 \theta} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta$
 $= \int_0^{\frac{\pi}{4}} d\theta = \left[\theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = \frac{\pi}{4}$

(2) $0 \leq x \leq 1$ のとき、 $1 \leq 1+x^4 \leq 1+x^2$ が成り立つ。

ゆえに $\frac{1}{1+x^2} \leq \frac{1}{1+x^4} \leq 1$

よって $\int_0^1 \frac{1}{1+x^2} dx < \int_0^1 \frac{1}{1+x^4} dx < \int_0^1 dx$

$\int_0^1 dx = \left[x \right]_0^1 = 1$ であるから $\frac{\pi}{4} < \int_0^1 \frac{1}{1+x^4} dx < 1$

16 (1) $k > 0$ のとき、不等式 $\int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx < \frac{1}{k}$ が成り立つことを示せ。

(2) 不等式 $\log_e(n+1) < \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \dots + \frac{1}{n}$ が成り立つことを示せ。

(3) 無限級数 $\frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots$ の収束、発散を調べ、収束するときは和を求めよ。

解答 (1) 略 (2) 略 (3) 正の無限大に発散

解説

(1) $k \leq x \leq k+1$ ($k > 0$) のとき $\frac{1}{x} \leq \frac{1}{k}$

ただし、等号が成り立つのは $x = k$ のときだけである。

ゆえに $\int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx < \int_k^{k+1} \frac{1}{k} dx$

この式で $\int_k^{k+1} \frac{1}{k} dx = \left[\frac{x}{k} \right]_k^{k+1} = \frac{1}{k}$

したがって $\int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx < \frac{1}{k}$

(2) (1) で示した不等式において、 $k = 1, 2, \dots, n$ とおき、辺々を加えると

$$\sum_{k=1}^n \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx < \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \dots + \frac{1}{n}$$

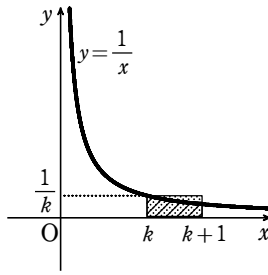
ここで $\sum_{k=1}^n \int_k^{k+1} \frac{1}{x} dx = \int_1^{n+1} \frac{1}{x} dx = \left[\log_e x \right]_1^{n+1} = \log_e(n+1)$

したがって $\log_e(n+1) < \frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \dots + \frac{1}{n}$

(3) $\lim_{n \rightarrow \infty} \log_e(n+1) = +\infty$ であるから、(2) で示した不等式により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(\frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \dots + \frac{1}{n} \right) = +\infty$$

よって、級数 $\frac{1}{1} + \frac{1}{2} + \frac{1}{3} + \dots$ は正の無限大に発散する。



17 実数 x に対して、 x を超えない最大の整数を $[x]$ で表す。 n を正の整数とし、

$$a_n = \sum_{k=1}^n \frac{[\sqrt{2n^2 - k^2}]}{n^2} \text{ とおく。このとき、} \lim_{n \rightarrow \infty} a_n \text{ を求めよ。}$$

解答 $\frac{\pi}{4} + \frac{1}{2}$

解説

実数 x に対して $x-1 < [x] \leq x$ が成り立つから

$$\sqrt{2n^2 - k^2} - 1 < [\sqrt{2n^2 - k^2}] \leq \sqrt{2n^2 - k^2}$$

各辺を n^2 で割ると

$$\frac{\sqrt{2n^2 - k^2} - 1}{n^2} < \frac{[\sqrt{2n^2 - k^2}]}{n^2} \leq \frac{\sqrt{2n^2 - k^2}}{n^2}$$

よって $\sum_{k=1}^n \frac{\sqrt{2n^2 - k^2} - 1}{n^2} < \sum_{k=1}^n \frac{[\sqrt{2n^2 - k^2}]}{n^2} = a_n \leq \sum_{k=1}^n \frac{\sqrt{2n^2 - k^2}}{n^2}$

ここで $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{\sqrt{2n^2 - k^2} - 1}{n^2} = \lim_{n \rightarrow \infty} \left\{ \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{2 - \left(\frac{k}{n}\right)^2} - \frac{n}{n^2} \right\} = \int_0^1 \sqrt{2-x^2} dx$

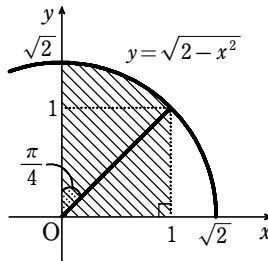
同様に $\lim_{n \rightarrow \infty} \sum_{k=1}^n \frac{\sqrt{2n^2 - k^2}}{n^2} = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \sqrt{2 - \left(\frac{k}{n}\right)^2} = \int_0^1 \sqrt{2-x^2} dx$

はさみうちの原理により

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \int_0^1 \sqrt{2-x^2} dx$$

この定積分は右の図の斜線部分の面積を表すから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = \frac{\pi(\sqrt{2})^2}{8} + \frac{1}{2} = \frac{\pi}{4} + \frac{1}{2}$$



18 m, n を正の整数とする。定積分 $I(m, n) = \int_0^1 x^m (1-x)^n dx$ に関して

(1) $I(m, 1)$ を求めよ。

(2) $n \geq 2$ のとき、 $I(m, n)$ を $I(m+1, n-1)$ を用いて表せ。

(3) $I(m, n)$ を m と n を用いて表せ。

解答 (1) $\frac{1}{(m+1)(m+2)}$ (2) $I(m, n) = \frac{n}{m+1} I(m+1, n-1)$

(3) $\frac{m!n!}{(m+n+1)!}$

解説

(1) $I(m, 1) = \int_0^1 x^m (1-x) dx = \int_0^1 (x^m - x^{m+1}) dx = \left[\frac{1}{m+1} x^{m+1} - \frac{1}{m+2} x^{m+2} \right]_0^1$
 $= \frac{1}{m+1} - \frac{1}{m+2} = \frac{1}{(m+1)(m+2)}$

(2) $I(m, n) = \int_0^1 x^m (1-x)^n dx = \left[\frac{1}{m+1} x^{m+1} (1-x)^n \right]_0^1 + \int_0^1 \frac{x^{m+1}}{m+1} \cdot n(1-x)^{n-1} dx$
 $= \frac{n}{m+1} I(m+1, n-1)$

(3) (2) から、 $n \geq 2$ のとき

$$I(m, n) = \frac{n}{m+1} \cdot \frac{n-1}{m+2} \cdot \dots \cdot \frac{2}{m+n-1} I(m+n-1, 1)$$

$$= \frac{m!n!}{(m+n-1)!} \cdot \frac{1}{\{(m+n-1)+1\} \{(m+n-1)+2\}} = \frac{m!n!}{(m+n+1)!}$$

これは $n=1$ のときも成り立つ。

19 (1) $f(x) = e^{-x} \sin x$, $g(x) = e^{-x} \cos x$ とおくとき、導関数 $f'(x)$, $g'(x)$ を求めよ。

(2) 自然数 k に対して、 $I_k = \int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} \sin x dx$, $J_k = \int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} \cos x dx$ とおくとき、(1) の結果を用いて $I_k + J_k$, $I_k - J_k$ を求めよ。

(3) 自然数 n に対して、 $S_n = \int_0^{n\pi} e^{-x} |\sin x| dx$ とおくとき、 $\lim_{n \rightarrow \infty} S_n$ の値を求めよ。

解答 (1) $f'(x) = -e^{-x} \sin x + e^{-x} \cos x$, $g'(x) = -e^{-x} \cos x - e^{-x} \sin x$

(2) $I_k + J_k = -(-e^{-x})^k (1+e^\pi)$, $I_k - J_k = 0$ (3) $\frac{e^\pi + 1}{2(e^\pi - 1)}$

解説

(1) $f'(x) = -e^{-x} \sin x + e^{-x} \cos x$ …… ①

$g'(x) = -e^{-x} \cos x - e^{-x} \sin x$ …… ②

(2) ① から $\int_{(k-1)\pi}^{k\pi} f'(x) dx = - \left(\int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} \sin x dx - \int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} \cos x dx \right)$

よって $f(k\pi) - f((k-1)\pi) = -(I_k - J_k)$

ゆえに $I_k - J_k = -e^{-k\pi} \sin k\pi + e^{-(k-1)\pi} \sin(k-1)\pi = 0$

② から $\int_{(k-1)\pi}^{k\pi} g'(x) dx = - \left(\int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} \cos x dx + \int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} \sin x dx \right)$

よって $g(k\pi) - g((k-1)\pi) = -(I_k + J_k)$

ゆえに $I_k + J_k = -e^{-k\pi} \cos k\pi + e^{-(k-1)\pi} \cos(k-1)\pi$
 $= -(-1)^k e^{-k\pi} + (-1)^{k-1} e^{-k\pi + \pi}$
 $= -(-e^{-\pi})^k (1+e^\pi)$

(3) (2) から $I_k = -\frac{1}{2} (-e^{-\pi})^k (1+e^\pi)$

よって $S_n = \sum_{k=1}^n \int_{(k-1)\pi}^{k\pi} e^{-x} |\sin x| dx = \sum_{k=1}^n (-1)^{k-1} I_k$

$$\begin{aligned}
 &= \sum_{k=1}^n \frac{1}{2}(e^{-\pi})^k(1+e^\pi) = \frac{\frac{1}{2}e^{-\pi}(1+e^\pi)\{1-(e^{-\pi})^n\}}{1-e^{-\pi}} \\
 &= \frac{(e^\pi+1)\{1-(e^{-\pi})^n\}}{2(e^\pi-1)}
 \end{aligned}$$

ゆえに

$$\lim_{n\rightarrow\infty} S_n = \frac{e^\pi+1}{2(e^\pi-1)}$$